

- 問1 1840年に清とイギリスの間で起きた戦争で、大国であった清が敗北したという知らせは江戸幕府に大きな衝撃を与えました。この戦争をきっかけに、幕府がそれまでの「異国船打払令」を改めて、外国船に燃料や水を与えて帰す方針とした際に発令した法令を選びなさい。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 天保の薪水給与令
 2. 武家諸法度
 3. 慶安の御触書
 4. 公事方御定書
- 問2 19世紀半ば、イギリスはインドで生産したアヘンを清へ密輸することで、自国の貿易赤字を解消しようとした。これに対し、清がアヘンの没収や破棄といった厳しい取り締まりを行ったことがきっかけで発生した戦争を何といいますか。 (2016年 高知公立入試 類似)
1. アヘン戦争
 2. 辛亥革命
 3. 甲午農民戦争
 4. 名誉革命
- 問3 19世紀のイギリス・インド・清の三者間で行われた「三角貿易」の構造について、各国の品物の流れを説明したのとして正しいものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. イギリスからインドへ綿織物を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を送る仕組み
 2. イギリスから清へ毛織物を送り、清からインドへ茶を送り、インドからイギリスへ綿織物を送る仕組み
 3. イギリスからインドへ銀を送り、インドから清へ綿織物を送り、清からイギリスへアヘンを送る仕組み
 4. イギリスから清へアヘンを送り、清からインドへ茶を送り、インドからイギリスへ銀を送る仕組み
- 問4 1853年、アメリカがペリーを浦賀へ派遣し、日本に対して強く開国を求めた当時の歴史的な背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2025年 鹿児島公立入試 類似)
1. 太平洋での捕鯨や中国との貿易のために、石炭や食料を補給する拠点として日本に確保したかったから。
 2. 日本で産出される銀を独占的に輸入することで、世界的な銀不足を解消しようとしたから。
 3. ロシアによる日本南下を防ぐために、アメリカが日本を軍事的な同盟国にする必要があったから。
 4. キリスト教を日本に広めることで、アジアにおけるアメリカの文化的影響力を強めたかったから。
- 問5 幕末の薩摩藩や肥前藩などにおいて、鉄を高熱で溶かすことで大砲などの強力な武器を自力で製造するために建設された施設を何といいますか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 反射炉
 2. 富岡製糸場
 3. 藩校
 4. 造船所
- 問6 19世紀におけるイギリスとインドの貿易関係について、産業革命の影響をふまえて述べた文として最も適切なものはどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. イギリスはインドから綿花を輸入し、工場で大量生産した綿織物をインドへ輸出した。
 2. イギリスはインドから生糸を輸入し、伝統的な技術で作られた絹織物をインドへ輸出した。
 3. イギリスはインドから羊毛を輸入し、機械化された工場で生産した毛織物をインドへ輸出した。
 4. イギリスはインドからアヘンを輸入し、代わりに中国産の茶をインドへ輸出した。
- 問7 徳川慶喜が大政奉還を行った背景と、その後の政治的な動きについての説明として、最も適切なものはどれか。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
1. 薩摩藩と長州藩による倒幕の動きが加速したため、先手を打って政権を返上し、新政府内での主導権を維持しようとした。
 2. 岩倉使節団の欧米視察により、天皇を中心とする中央集権国家のモデルが紹介されたため、幕府を自発的に解散した。
 3. 安政の大獄によって反対勢力を一掃した結果、徳川家の権力は強固になり、朝廷に形式的な敬意を示す余裕が生まれたため。
 4. 坂本龍馬が仲介した薩長同盟を破棄させる条件として、朝廷から政権を一時的に預かるよう要請されたため。
- 問8 1867年、東海や近畿地方を中心に、編み笠を被った大勢の民衆が「お札が降ってきた」という噂をきっかけに、通りで入り乱れて熱狂的に踊り歩いた騒動を何と呼びますか。 (2026年 千葉公立入試 類似)
1. ええじゃないか
 2. 御蔭参り
 3. 米騒動
 4. 秩父事件
- 問9 1867年、江戸幕府の第15代将軍であった徳川慶喜が、政権を朝廷に返上した出来事を何といいますか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
1. 大政奉還
 2. 王政復古の大号令
 3. 版籍奉還
 4. 廃藩置県
- 問10 1862年、神奈川宿近くの生麦において、薩摩藩主の父である島津久光の行列を横切ったイギリス人を藩士が殺傷する「生麦事件」が発生しました。この事件の賠償を求めて翌年に鹿児島湾へ現れたイギリス艦隊と薩摩藩との間で起きた戦いと、その後の薩摩藩の動向について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 鳥取公立入試 類似)
1. 薩英戦争が発生したが、この戦いを通じて薩摩藩は武力による攘夷の困難さを痛感し、イギリスへの接近や軍制の近代化へと方針を転換した。
 2. 下関戦争が発生したが、イギリス軍を退けた薩摩藩は自信を深め、江戸幕府に対して異国船打払令を徹底するよう強く要求した。
 3. 薩英戦争に勝利した薩摩藩は、イギリスとの間に日英通商航海条約を独自に締結し、領事裁判権の撤廃を認めさせた。
 4. 生麦事件の解決のために下関条約が結ばれ、薩摩藩は多額の賠償金を支払う代わりに、イギリスから最新式の蒸気船を譲り受けた。
- 問11 幕末の長州藩は、当初は外国勢力を武力で排除しようとする強い姿勢を示していましたが、下関でイギリス・フランス・アメリカ・オランダの四国連合艦隊と交戦し敗北を喫しました。この経験を経て、長州藩がとった行動として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 富山公立入試 類似)
1. 武力による攘夷の不可能性を認識し、国を開いて外国の優れた技術や制度を取り入れようとする開国へと方針を転換した。
 2. 外国の軍事力に対抗するため、幕府との協力関係をさらに強めて攘夷を徹底する体制を整えた。
 3. 天皇の権威を利用して外国を排除するため、京都で尊王攘夷運動をさらに激化させた。
 4. 西洋の文化を急速に取り入れるため、藩の制度を廃止して政府が直接統治する廃藩置県をいち早く提案した。
- 問12 1840年に始まったアヘン戦争において、清がイギリスに敗北したという情報を得た江戸幕府は、それまでの強硬な対外政策を改めて1842年に「薪水給与令」を出しました。この法令の内容として最も適切なものはどれですか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. 日本近海に現れた外国船に対し、燃料となる薪や水、食料などを与え、糧食を確保し、穏やかに退去させるようにした。
 2. 海岸に近づく外国船に対して、理由を問わず一律に砲撃を加えて追い払うよう、諸藩に改めて徹底した。
 3. アメリカの要求を受け入れ、下田と函館の2港を開いて外国船が薪や水などの補給を受けられるようにした。
 4. 長崎でのオランダ・清との貿易をさらに拡大するため、組織的に薪や水を供給する役職を新設した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天保の薪水給与令	19世紀半ば、アヘン貿易をめぐる対立から清とイギリスの間でアヘン戦争が勃発しました。この戦争で清が敗れたという情報を得た江戸幕府は、従来が強硬な「異国船打払令」を続けることでイギリスなどの強力な軍事力を持つ国と紛争になることを恐れ、1842年に「天保の薪水給与令」を出しました。これにより、日本近海に現れた外国船を無差別に攻撃するのではなく、薪や水、食料を与えて穏やかに退去させる方針へと転換しました。
問2	答え 1 アヘン戦争	イギリスは、清から輸入する茶の代金として支払っていた銀が大量に流出することを防ぐため、植民地であるインドからアヘンを清へ持ち込む「三角貿易」を行いました。清がこの密輸を禁止したことに對してイギリスが武力で応じたのがアヘン戦争です。この戦争の結果、清はイギリスに敗北して南京条約を結び、東アジアにおける伝統的な秩序が大きく揺らぐこととなりました。
問3	答え 1 イギリスからインドへ綿織物を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を送る仕組み	イギリスは自国の産業革命で生産された綿織物をインドへ輸出し、インドではアヘンを生産させて清へ密輸させました。そして清からイギリスへ茶を輸出させることで、最終的にイギリスから流出した銀が回収されるという循環構造を築いていました。これがアヘン戦争へとつながる国際的な背景となりました。
問4	答え 1 太平洋での捕鯨や中国との貿易のために、石炭や食料を補給する拠点を日本に確保したかったから。	当時のアメリカでは産業革命が進展しており、機械用の潤滑油や灯火用の油を得るための捕鯨が盛んでした。また、巨大市場である中国（清）との貿易も活発化しており、太平洋を横断する際の石炭や水、食料の補給基地として日本の港を開放させることがアメリカにとっての最優先課題でした。
問5	答え 1 反射炉	幕末、欧米列強の進出に対抗するため、日本各地の有力な藩は軍備の近代化を急ぎました。従来の青銅製よりも強力な鉄製の火砲を作るためには、鉄を高温で溶かす高度な技術が必要であり、そのために建設されたのが反射炉です。特に佐賀藩（肥前藩）や薩摩藩、江戸幕府による葦山（静岡県）のものが有名です。
問6	答え 1 イギリスはインドから綿花を輸入し、工場で大産した綿織物をインドへ輸出した。	産業革命によって綿工業が飛躍的に発展したイギリスは、原料である綿花をインドやアメリカなどから輸入し、製品化した綿織物を世界中に輸出しました。以前はインド産の綿織物が人気でしたが、機械生産による安価なイギリス製品が逆にインド市場を席巻することになりました。毛織物は産業革命以前のイギリスの主力産業であり、絹織物は中国や日本などの主要産品であるため誤りです。
問7	答え 1 薩摩藩と長州藩による倒幕の動きが加速したため、先手を打って政権を返上し、新政府内での主導権を維持しようとした。	坂本龍馬らの仲介で薩摩藩と長州藩が同盟を結び、武力による倒幕の準備が進む中で、徳川慶喜は自ら政権を返上（大政奉還）する道を選びました。これは、平和的に政権を返すことで、徳川家が将来設置される議会や政治体制においても大きな力を持つとする戦略的な背景がありました。岩倉使節団や安政の大獄は、大政奉還が行われた時期や文脈とは異なります。
問8	答え 1 ええじゃないか	幕末の動乱期である1867年に発生した「ええじゃないか」は、編み笠などの仮装をした民衆が熱狂的に踊り歩くという特異な社会現象でした。これは単なる騒ぎではなく、古い秩序が崩壊する中で民衆が抱いた「世直し」への期待が爆発した姿であると解釈されています。
問9	答え 1 大政奉還	幕府の権威が失墜し、薩摩藩や長州藩による武力倒幕の動きが強まる中、徳川慶喜は自ら政権を朝廷に返すことで倒幕の機運をそらそうとしました。これが大政奉還です。その後、倒幕派の主導によって天皇中心の新政府を樹立することを宣言した「王政復古の大号令」が出されることとなります。
問10	答え 1 薩英戦争が発生したが、この戦いを通じて薩摩藩は武力による攘夷の困難さを痛感し、イギリスへの接近や軍制の近代化へと方針を転換した。	1862年の生麦事件をきっかけに、1863年に薩摩藩とイギリスの間で薩英戦争が勃発しました。薩摩藩はこの戦いでイギリスの圧倒的な軍事力を目の当たりにし、それまでの「攘夷（武力で外国を追い払うこと）」が不可能であることを悟りました。これを機に、薩摩藩は敵対していたイギリスと急接近し、武器の購入や軍隊の近代化を進めることで、後の倒幕運動の中心勢力へと成長していきました。選択肢にある下関戦争は長州藩が関わったものであり、下関条約は日清戦争の講和条約です。
問11	答え 1 武力による攘夷の不可能性を認識し、国を開いて外国の優れた技術や制度を取り入れようとする開国へと方針を転換した。	長州藩は1863年に下関海峡を通過する外国船を砲撃しましたが、翌年の四国連合艦隊による報復攻撃で大敗しました。この際、西洋との圧倒的な軍事力の差を痛感したことで、それまでの「攘夷（外国を排除する）」という考えが現実的ではないと悟りました。その結果、武力による排除をあきらめ、むしろ積極的に外国から技術を学び、国力を高める「開国」へと大きく方針を転換し、後の倒幕運動へとつなげていきました。
問12	答え 1 日本近海に現れた外国船に対し、燃料となる薪や水、食料などを与えたうえで、穏やかに退去させるようにした。	江戸幕府は1825年に「異国船打払令」を出して外国船を厳しく排除していましたが、アヘン戦争で大国である清がイギリスに敗れたことに衝撃を受け、方針を転換しました。強力な軍事力を持つ外国との紛争を避けるため、困窮している外国船には薪水（燃料と水）や食料を与えて立ち去らせる「薪水給与令」を出し、対外緊張の緩和を図りました。